

健全な財政運営を維持

全国平均を上回る 財政状況

市の財政状況を表す主な指標に
経常収支比率、公債費負担比率、
財政力指数があります。

財政構造の弾力性を示す指標で
ある経常収支比率は、80%を下回
っていて良好といえます。公債費
負担比率も、前年度と比較して下
回っています。

財政力の強弱を示す目安となる



7月に開通した「なかよしトンネル」

財政力指数は、前年度を上回って
おり、全国平均と比べても依然と
して高い水準です。

経常収支比率

収入に対して人件費や扶助費な
ど毎年必ず出ていくお金がどのく
らいの割合になっているかを示す
値です。通常、80%を超える場合
には、財政が弾力性を失いつつあ
ると考えられています。

公債費負担比率

一般財源総額の内、公債費に使
われた一般財源の割合で
す。この比率が高いほど
借入金返済のための経費
が多いことを表していま
す。

財政力指数

地方公共団体の財政力
を示す指標で、この数値
が大きいほど財政力が強
いと見ることができ、「1」
以上の団体は、きわめて
財政力の強い団体と考え
られ、普通交付税の不交
付団体となっています。

区分 年度	経常収支比率				公債費負担比率				財政力指数			
	本市	増減	全国平均	県内平均	本市	増減	全国平均	県内平均	本市	増減	全国平均	県内平均
14	74.0	3.0	-	-	9.8	0.2	-	-	1.527	0.058	-	-
13	71.0	1.9	85.0	85.5	10.0	0.3	14.9	13.0	1.469	0.001	0.64	0.838
12	72.9	0.5	84.5	84.5	9.7	0.1	14.6	13.8	1.470	0.061	0.66	0.845

- ・平成14年度の全国・県内平均については、現在集計中のため空欄となっています。
- ・全国平均は602市の平均で、総務省発行の「地方財政白書」から、県内平均は市平均で、千葉県発行の「市町村財政の状況」からの抜粋です。

決算審査意見書要約

成田市監査委員
藤崎 毅
渡邊 昭

平成14年度成田市一般会計・特別会計・水道事業会計の決算と基金運用状況について、地方自治法その他関係法令の規定に基づき審査した結果、決算書などの計数に誤りがなく、予算ならびに運用はその目的に沿っておおむね適正に執行されていると認められました。

一般会計・特別会計、基金

市政の重要目標にかかる予算の執行状況は、第一に「なりた自然郷構想」の実現に向けて騒音地区の土地利用を図るべく、(仮称)北羽鳥多目的広場整備事業において仮造成工事を進め、事業完成を目指しています。

第二に保健・医療・福祉施策の拠点としての「保健福祉館」本館に続き簡易マザーズホームが完成しました。

第三に駅前整備とまちづくりの一環としての成田ニュータウン加良部地区と国道51号を結ぶ都市計画道路郷部線の整備事業が平成17年度の完成を目指し進行しています。また、圏護台踏切立体交差化事業に伴う、なかよしトンネルが開通しました。上町・花崎町地区においては、架空線地中化事業が進んでいます。

これらの施策は、当初の一般会計および特別会計予算の期待する効果をほぼ達成したものと認められます。

今後の財政運営については、低経済成長が続いている中において、都市基盤の整備、少子高齢化の本格化や環境問題への対応、教

育改革への取り組みなど、今後も多額の財政需用が見込まれます。これからも、市税をはじめとする自主財源の確保に努めるとともに、行財政の合理化、事務事業の見直しなどを積極的に推進し、「最少の経費で最大の行政効果」をあげる効率的な行政運営を行うとともに、財源の重点的、効率的な配分により市民福祉の向上と市政の発展に一層努力されるよう要望します。

基金については、特定目的基金13基金、定額運用基金7基金を運用しており、基金運用状況の計数金額は正確で適正に運用されていると認められました。

預け入れ金利の低下など、厳しい環境下ではありますが、基金の目的に沿って確実に効率的運用を要望します。

水道事業会計

建設改良事業では、計画的に配水管敷設工事、老朽管敷設工事などが実施され、生活用水の安定供給に対する施設整備の充実が図られています。業務実績では、給水戸数、給水人口、有収水量はともに増加し、給水区域内普及率、有収率も向上しています。

経営成績では、約1億5028万円余りの純利益となつています。安定した水道水の供給には、老朽管の敷設替えなどの施設拡充整備は不可欠で、将来にわたる財政負担見通しを踏まえ、公営企業の経済性を発揮しつつ安全で良質な生活用水の安定供給に努力を望むものです。

バランスシートが示す 市の資産と負債

バランスシートから 分かること

本市のバランスシートは、一般会計すべての特別会計および水道事業会計を含めて作成していますので、市の全体像を知ることができます。

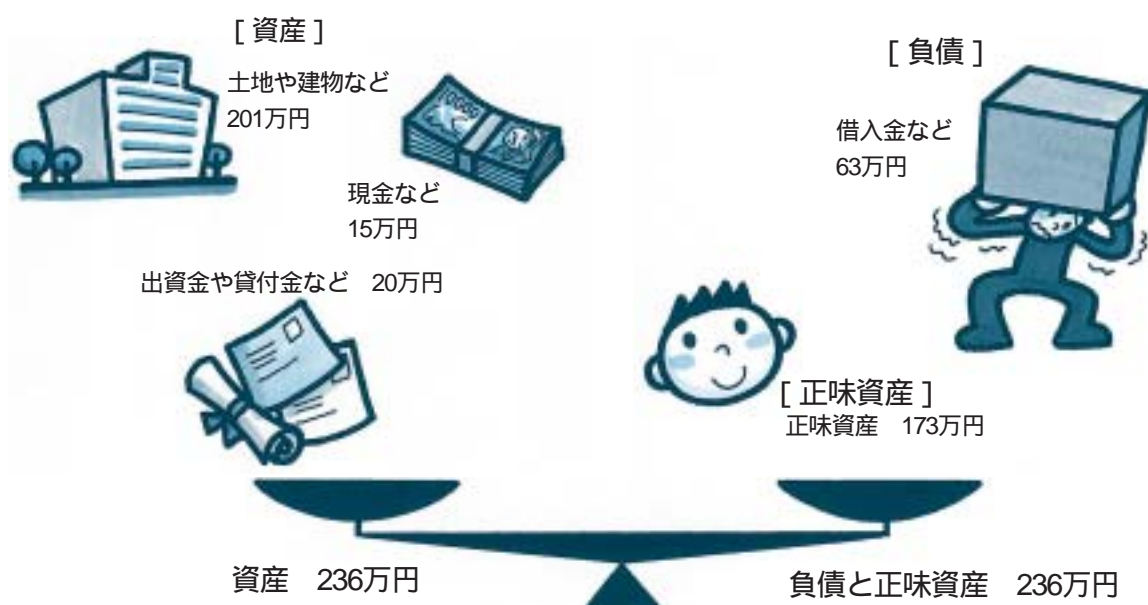
資産は、市が保有する財産の内容を表しています。道路、公園、小・中学校などの公共施設や基金などで、将来にわたり行政サービスを提供するための資源であるといえます。

負債は、将来にわたって支払いや返済の必要があるものです。市民が長期にわたって使用する施設を整備するための財源として、市債(国などからの借入金)などを利用していきます。これは、施設を使用する将来の市民にも、その費用の一部を負担していただくものです。

正味資産は、資産から負債を差し引いたもので、将来に負担を残さない資金です。市税や国・県からの補助金などで賄ったものです。

バランスシートを見ると、資産に対して正味資産の割合が高く(73.5%)、本市が健全な財政運営を行ってきたことが分かります。このバランスシートは、国の基準により作成しています。

市民一人当たりのバランスシート



成田市全体のバランスシート

(平成15年3月31日現在、単位：百万円)

[資産]		[負債]	
1. 固定資産	195,388	1. 固定負債	57,600
総務費(市庁舎、防災施設など)	10,850	地方債	49,135
民生費(保健福祉館、保育園など)	5,563	退職給与引当金	8,226
衛生費(ごみ処理施設、リサイクルプラザなど)	11,927	その他引当金等	239
労働費(勤労会館など)	111	2. 流動負債	3,166
農林水産業費(農道、排水路など)	4,775	翌年度に支払う市債など	
商工費(東和田駐車場、公衆トイレなど)	1,107		
土木費(道路橋りょう、公園、河川など)	63,154	負債合計	60,766
消防費(消防署、消防車など)	2,427		
教育費(学校、図書館、公民館など)	51,899	[正味資産]	
卸売市場(水産棟、青果棟など)	2,081	県からの補助金	2,673
下水道(下水管、ポンプ施設など)	25,466	国からの補助金	22,255
水道(配水管、配水場など)	16,002	市税などの一般財源	143,254
その他	26	正味資産合計	168,182
2. 投資など(出資金、貸付金など)	19,428		
3. 流動資産(現金、預金など)	14,105	負債と正味資産の合計	228,948
4. 繰延資産	27		
資産の合計	228,948		